



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2012 **3**



1月19日(木)~20日(金)、24日(火)~26日(木)「第7回初級経理学校」(上段) 参加者全員が修了しました。
2月16日(木)~17日(金)「第10回税務・経理講習会」(下段) (関連ページP.7)

— 人とひとの心がふれあう、暮らしよい兵庫をめざして —

絆

2月に入ったばかりのある日、事務所に岩手県の重茂漁協から手紙とともにワカメが送られてきた。手紙を拝見すると復興が順調に進み、復興の第1弾として養殖早採りワカメを初収穫したので送るとの内容であり、昨年の3月26日に会長を先頭に我々の支援隊が、岩手県と宮城県にお見舞いに赴いたことに対するお礼の言葉が丁重にしたためられていた。

昨年、4月も終わろうかという時に「復興の海へ…宮古重茂漁協の40日間」というタイトルのNHK報道番組を見た。港は壊滅的な状態の上、800隻の漁船のうち助かったのは僅か14隻、主幹漁業である定置網も全滅という中で、「海に戻るのが怖い」という若者、「何からやっつけていいのかわからない」というベテラン、漁村を中心とした地域が絶望に包まれていた。

幸いなことに「何のために漁協はあるのか！組合員が必要としていくからならば、漁協はすべての責任を持つて行動すべき」とのゆるぎない信念を持った組合長、伊藤隆一さんと組合長を支える仲間がいた。

漁師をもう一度奮い立たせるには、何としてでも全員に船をとの想いから、国や県の復興策が示されない中で、漁業を再開するため漁船や漁具の手配をするに当たり、組合員に新たな借金はさせない、全て組合が資金を調達して準備をする。全員に船がいきわたるまでは残った船、集めた船を全員が交代で使い、水揚げは均等に分けるという案を組合員全体協議会で示し賛同を得た。会場から出てきた組合員たちの顔には希望の灯りがともっていた。

番組の終わりに、組合員へのア

CONTENTS

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 2. 想点 4. 東日本大震災 震災支援の取り組み報告
生活協同組合コープこうべ/
生活クラブ生活協同組合都市生活/
神戸医療生活協同組合/尼崎医療生活協同組合/
兵庫労働共済生活協同組合 6. 第4回理事会報告/
神戸市民生活協同組合 事務所移転のお知らせ 7. 第7回初級経理学校 開催報告/
第10回税務・経理講習会 開催報告 | <ul style="list-style-type: none"> 8. 単協通信 生活協同組合コープこうべ/
阪神医療生活協同組合/
神戸市民生活協同組合/近畿労働金庫兵庫地区統括本部 10. 協同組合のかけ橋 11. 兵庫県のページ 12. 『兵協連だより』通信員・広報担当者研修会のご案内/
2012年度行事予定表(主要行事)/
県連日誌/編集後記 |
|---|--|



兵庫県漁業協同組合連合会
(JF兵庫漁連) 専務理事

山口 徹夫

(やまぐち・てつお)

アンケート調査の結果を見ている組合長の姿があった。組合員406世帯の9割以上が海に戻るという回答を見つめる、慈愛に満ちた組合長のやさしい表情が映えていた。

まだまだ復興の道半ばであることとは思いますが、想像を絶する被害を乗り越えて着実にその道を歩んでおられることが、震災後1年近くが経過した時に届いた一通の便りとワカメから伺えた。

同時に、組合員意識が希薄になりがちで最近の傾向にあつて、極限状態の中から協同組合のリーダーたちが組合員と地域のことを考え、組合員が理解を示し、互いに助け合い、支え合っている重茂漁協の姿を見て勇気づけられるし、被災地の浜では同じような努力が積み重ねられていることは想像に難くない。

また、漁協だけではなく、現地の生協やJAそしてあらゆる協同組合が地域の復興に向けた活動を担い、加えて、全国の多くの協同組合が支援の輪を広げてきた。

今年折しも国際協同組合年。

全国実行委員会は今年の1月に協

同組合憲章草案を決定したが、その前文にも「これまで培ってきた協同のネットワークを活用して、被災住民への支援を積極的に行

なった。協同組合以外の分野でも、至るところで市民による多様な被災地支援が行なわれ、共助・協同への関心が高まった。社会を安定化させるためには、自己責任(自助)

と政府の援助(公助)だけでは不十分であり、人びとの助け合い(共助)が必要だという社会認識が広まっている。」と記されている。

ここで思うことは、協同組合に関係していない一般市民の支援活動であるが、共に助け合うという行為に人が人である本質と見ることができるとし、協同組合はこの本質を具現化した組織であり、その源泉である絆の大切さを再認識すべきではないかということだ。

東北に関する話題をもうひとつ!

去年は国際森林年であったが、「森は海の恋人」運動で20年以上も活動を続けてきた宮城県気仙沼

の漁業者である畠山重篤さんが、森林保護に貢献したとして国連機関から「フォレストヒーロー」に選ばれ、表彰が2月9日にニューヨークの国連本部で行われた。

カキ養殖を営んでいる畠山さんは、海の汚染や海を育む川からの豊かな水と森の関係に着目し、森づくりをとおして豊かな海づくりを目指してきた。

瀬戸内海も一時は海洋汚染や富栄養化によって、瀬死の海と呼ばれていたものが、ダムや河口堰によって、あるいは総量規制の進捗によって陸域との関係が絶たれ、むしろ貧栄養の海となってきたことから、JCCでの協力も頂きながら豊かな海を求めての活動を展開し、現在も瀬戸内海の関係漁連が協力して運動を続けている。

こんな折、今年の国際協同組合デー・兵庫県記念大会で畠山さんの講演が決定したが、講演をとおして協同組合の仲間の皆さんにも現在の海のことを理解いただける機会ができたこと、JCCのご配慮に感謝している。

い、つながって、明日へ……

東日本大震災から一年。あらためて、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。現在も被災地では、復興への懸命の努力が続けられています。これまでに全国の生協の仲間が、被災地支援に駆けつけました。兵庫県生協連の会員生協も、震災直後からさまざまな支援活動を行ってきました。出会った方々との「絆」を深めながら、これからも復興への支援活動を続けます。

生活協同組合コープこうべ 被災地の組合員さんに寄り添って 交流を続けます

1月16日と17日、みやぎ生協の役員・職員10人が阪神・淡路大震災追悼行事に合わせてコープこうべを訪問。みやぎ生協の皆さんは、2日間におたり、協同学苑や賀川記念館、店舗などの見学や、震災追悼行事に参加しました。17日に行われた交流会では、被災地支援を行っているコープこうべの組合員さんと今後の復興に向けたボランティア活動について話し合いました。昨年、みやぎ生協の組合員さんに応援メッセージを募る、「キモチつながるプロジェクト」に取り組み、約2000通のメッセージを送りました。これに対し、みやぎ生協・沼倉優子副理事長から「絆メッセージ」が山添令子常勤理事に手渡されました。またコープこうべは1月から3月にかけて、3



カ月連続の募金活動を行っています。1月は、仮設住宅に入居している組合員の家計負担軽減

減を目的とした「灯油支援募金」。2月は、福島県の子どもたちが、週末や休日に放射線量の低い地域で過ごす活動を支援する「福島子ども保養プロジェクト支援募金」。3月は、「みやぎ生協ボランティアセンター支援募金」と、東日本を忘れず継続応援していきます。(通信員 榊原 晶子)

生活クラブ生活協同組合都市生活 私たちの経験以上に長い支援が必要です

東日本大震災では、震災2日後にスタッフを生生活クラブやまがたに派遣、現地のボランティアと共に、避難所運営や救済物資の支援を行いました。この2月には観光で東北を後押しする「東北応援ツアー」を企画、実施しました。

生活クラブふくしまとの連携では、仮設住宅での「青空市」に毎月、販売物を送っています。また福島の組合員を招待する「リフレッシュツアー」を9月に実施。15名の枠に90人以上の応募があり、兵庫でのびのび過ごして頂きました。



西宮市では、県外避難者が集える場「リフレッシュ・カフェ」を月2回、開催しています。母子で避難された方が、家族と離れた生活や仕事など、避難生活の中で不安に感じていることをお話しされています。これらの活動は組合員から

寄せられたカンパで行っています。今回の復興への道のりは、私達の経験以上に長くなります。今後も組合員の思いを被災地に繋げながら、支援活動を続けていきます。



(特定非営利活動法人都市生活コミュニティセンター事務局長・福田和。都市生活コミュニティセンターは、生活クラブ都市生活の組合員が設立したNPO法人です。阪神・淡路の救援に始まり、ボランティアや訪問介護などの地域福祉のほか、過去の経験を生かした災害救援も行なっています。)

神戸医療生活協同組合 「ひとりじゃない」の思いを届ける 被災者支援のとおりくみ

●緊急災害医療支援 9回 のべ33名
●被災者生活支援 8回 のべ135名
●郡山医療生協への看護師支援 2名のべ22日



3月11日の震災発生直後、2日後に控えた「創立50周年記念フェスタ」の開催をどうするか悩みました。地元自治会・商店街のみなさんに相談すると、阪神淡路大震災を経験した神戸だからこそ早く支援の声を上げよう、ということに

～復興への道のりを支え合

なり、「東北地方太平洋沖地震被災者支援のつどい」として実施することになりました。当日は新長田の鉄人広場を中心に1万人がつどい、義援金は104万円が寄せられ、被災者に届けることができました。長田で生まれた神戸医療生協が地域のみなさんに支えられていることをあらためて実感する一日となりました。

〔震災直後から医療支援を継続〕

5月末まで宮城県の坂総合病院を中心に医療支援を継続し、医師・保健師・看護師など9回のべ33名の職員が参加しました。被災地では「神戸から来た」ということだけで感謝される場面も多く、参加した職員が被災者から力をもらって帰ってきました。

8月には郡山医療生協への看護師支援を2名のべ22日間行いました。

〔5月から生活支援ボランティアの開始〕

5月のゴールデンウィークに生活支援として炊き出しを行ったのをきっかけに、宮城県山元町への支援行動が始まりました。地元のある南医療生協とも連携をとりながら、住宅再建のための側溝や床下の泥だしをはじめ、「助かったいのちを大切にしたい」との願いから、神戸での経験を生かして仮設住宅での健康チェックやカラオケ・バザー・もちつき・クリスマス会などを行い、組合員も含めて8回のべ135名が参加しました。

今回は震災だけでなく原発問題もあります。被災者への長期の支援が必要なことと、その困難さも私たちは経験しています。だからこそ、ひとりじゃない、いっしょに、という思いを込めて、現地で



も神戸でもできる支援活動を行こうと思っています。

(震災支援本部事務局 堤 茂)

尼崎医療生活協同組合

人と人とのつながりがこそが復興へのステップ



震災直後から救援対策本部を立ち上げ、医師、看護師、医療スタッフ、被災者支援スタッフを派遣し医療支援を継続しています。また、義援金や支援物資を集約し直接現地へ届ける活動も続けています。

これまで宮城県山元町を中心に、現地支援日数50日。近畿各地の医療生協等とともに、のべ991名が支援活動を行いました。

2月11日、仮設住宅の被災者と在宅被災者の支援のため、看護学生、医学生と一緒に山元町を訪ねました。仮設住宅では「健康チェック」、「脳いきいき教室」を開催。インストラクターのもと、最初は緊張気味な方々も、次第にみなさんニコニコと健康体操を楽しみました。また在宅被災者宅で開かれた「茶話会」では10数人が集まり、「今、困っていること」や、「くらしの情報」などの話を持ち寄りました。

今後も健康チェックや健康体操など、保健・医療・介護を中心とした支援活動を、毎月継続して行なう予定です。これからの復興への道のりを、被災地と共に歩みながら活動を続けていきます。

(東日本大震災救援ニュースNo. 73より)



兵庫労働共済生活協同組合 組合員とのやりとりで得たものを、 次なる災害時の「備え」につなぐ

昨年3月11日に発生した「東日本大震災」は、未曾有の自然災害となりました。

全労済は、被災組合員対応を最優先とし、全国の職員を動員。兵庫労済(全労済兵庫県本部)も、被災地(宮城・福島・茨城)に職員を派遣し、被災組合員宅の訪問、被害調査、損害認定などにあたりました。この結果、2012年1月末現在、全労済として、支払い件数 294,077件/支払い総額 1,136億4,252万円の共済金支払いをすることができました。

私自身、調査要員として宮城県に赴いた際、ある被災組合員との会話のなかで「どこから応援にきたの?」という話題となり、「阪神・淡路大震災」にて全国から多くの支援をうけた経験をもつ兵庫県の共済生協である旨を伝えると、その後の会話がはずんだことがありました。そして、最後に頂戴した「これこそ助け合いですね」との言葉が、今も印象に残っています。

昨年は、東日本大震災のほかにも、台風19号・20号による被害もあり、被災された組合員と対面する機会を多く得た一年となりました。その際に組合員からいただいたご意見・ご要望や、対応上のノウハウ・教訓は、将来の自然災害対応に十分いかせるよう、今後検証・総括をすすめていくことになっています。

また、現場調査要員の拡充・スキルアップ、災害時対応態勢の整備にも、より一層努めてまいります。

(通信員 鶴田 和彦)



現地災害対策本部の様子



全労済職員による現場調査

2011年度 兵庫県生協連・第4回理事会報告

I. 開催日時 2012年2月6日(月) 午後2時～4時

II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」

III. 出席者

本田会長理事、寺尾副会長理事、大西専務理事、
板崎、高橋、福島、大槻、新保、伴、大沼、井上、小野田、酒井（以上、理事）
藤田、金丸、秦（以上、監事）

〈協議事項〉

- (1) 兵協連2012年度第62回通常総会に向けての手順とスケジュール（案）について
- (2) 兵協連2012年度活動計画ラフ（案）について
- (3) 兵協連2011年度決算見通しと2012年度予算ラフ（案）について
- (4) 2012年度兵協連会費基準と算定の考え方について
- (5) 労働金庫よりのつなぎ融資について

〈報告事項〉

- (1) 「会員生協の概況報告」各出席理事・監事より報告
- (2) 前回理事会から2月初旬までの兵協連諸行事・諸活動報告
- (3) 2011年度兵協連研修実施報告と計画（案）
- (4) 兵協連第4回生協対策資金貸付審査会開催報告
- (5) 2012国際協同組合年の取り組み（案）—兵庫JCC



神戸市民生活協同組合 事務所移転のお知らせ

このたび、当組合は、平成24年4月1日(日)に下記住所へ事務所を移転することになりました。それに先立ちまして、平成24年3月19日(月)より、営業窓口が下記の住所に移転いたします。住所の変更に伴いまして、電話番号、FAX番号も変更となりますのでご案内申し上げます。

皆様にはたいへんご不便をおかけいたしますが、何卒ご了承のほどお願い申し上げます。
今後とも、一層のご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新住所 〒651-0096 神戸市中央区雲井通5丁目3番1号サンパル8階

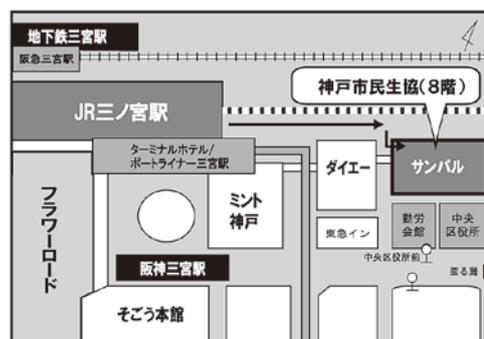
新電話番号 (078) 241-2261

新FAX番号 (078) 241-2271



●交通アクセス

- ・JR三ノ宮駅より徒歩5分
 - ・各私鉄三宮駅より徒歩5分
 - ・神戸市バス7・29系統の「中央区役所前下車」徒歩2分
- ※専用駐車場はございませんので、ご了承くださいませ。



兵庫県知事認可

暮らしのメイト



安全・安心の暮らしを支え57年

神戸市民生協

〒650-0033 神戸市中央区江戸町92

神戸市役所4号館7階

TEL. 078-391-4555 <http://www.kccs.or.jp/>
(営業時間 9:00～17:30 土・日・祝日休業)

2011年度「兵庫県生協連・第7回初級経理学校」を開催

今年で7回目となる経理学校は、会員生協の経理担当者の人材育成をめざして、生協の経理実務を基礎から学ぶことを目的に行われています。今回もMMコンサルティング・三宅充氏を講師に迎え1月19日(木)～20日(金)、1月24(火)～26日(木)の延べ5日間の講義に、11会員生協(4関連会社)、計17名が受講しました。

現在の経理実務はパソコン等の導入で迅速に処理されるようになりましたが、決算の仕組みはわかりにくくなっています。5日間にわたる講義では、日本生協連発行『入門 生協の経理実務～伝票式会計～』をテキストに、生協簿記を基礎知識から学びました。取引や仕訳の仕組みを理解して試算表と精算表を作成し、最終的には決算書類である貸借対照表・損益計算書の作成が出来るようになることが目標です。講義は、実際に仕訳伝票を使用しながら演習問題などを繰り返し、時間をかけて丁寧に進められました。講義を熱心に聞き入り、演習問題に集中して取り組む姿



が見られたほか、受講生が互いに教え合い、理解を深める場面もありました。そして、最終日の講義終了後には、兵庫県生協連・大西専務理事から「第7回初級経理学校修了証」が受講者一人ひとりに手渡され、拍手のなか、全員が無事に修了証書を受け取りました。

受講者からは、「初めはできる気がしなかったけど、決算書類を作ることができた!」「基本から順序立てて学ぶことができた」などの感想が寄せられ、経理実務についての第一歩を刻む学びの場となりました。



講義をされる三宅充氏



2011年度「兵庫県生協連・第10回税務・経理講習会」を開催

2月16日(木)～17日(金)の2日間にわたり、今年で10回目となる「税務・経理講習会」を県民会館にて開催しました。11会員生協(5関連会社)の職員17名が参加しました。この講習会では、日本生協連 会員支援本部・江藤俊哉氏をはじめ、MMコンサルティング・三宅充氏、コープこうべ 経理部・山下信孝氏、西宮市職員生協 統括部・宮田正樹氏を講師に迎え、全体オリエンテーションと「初級」「中上級・関連会社」の2クラスに分かれて講習を行いました。



中上級・関連会社クラス



初級クラス

参加者からは「税金の仕組みをしらないと、損をと思った」「本や参考書を読むだけでは理解できなかったことが分かった」「次の決算に向けて、自分で作れるようになりたい」との感想が寄せられ、実践に役立つ講習会となりました。



全体オリエンテーションで講義される日生協・江藤俊哉氏

まず、全体オリエンテーションでは、江藤氏より「平成23年度税制改正について」と題して、平成23年度税制改正に伴う変更点を中心に新たな法律案についても、わかりやすく解説をいただきました。続いて、三宅氏より「税務調査の対応と心構え」と題して、過去の事例を交えながら注意すべき事項を中心にお話をいただきました。

そして午後から2日目にかけては、「初級クラス」「中上級・関連会社クラス」に分かれて講習。初級クラスでは、「税務・会計・財務管理の基本」を中心に、法人税についての概要、そして会計上の収益・費用と税務上の益金・損金のちがいなど、税務のベースとなる基本項目を事例に基づき身近な事例をあげて、税務の基礎を徹底的に学習しました。また、中上級・関連会社クラスでは、初日から設例に基づいて税務申告書を作成。少人数を活かしてマン・ツー・マンで指導をしながら演習を行いました。

参加者からは「税金の仕組みをしらないと、損をと思った」「本や参考書を読むだけでは理解できなかったことが分かった」「次の決算に向けて、自分で作れるようになりたい」との感想が寄せられ、実践に役立つ講習会となりました。

生活協同組合コープこうべ

新たな商品も登場し
今年も供給を伸ばしました

2月3日（金）の節分、巻き寿司を買い求める組合員さんで各店舗の売り場は賑わいました。「丸かぶり」の習慣がしつかりと根付き、組合員さんの家庭でも恒例行事となっております。店内でも節分の雰囲気盛り上げる鬼の面や大きな巻き寿司などが飾りつけられました。大人の背丈ほどのジャンボ巻き寿司をつくった店舗もあり、具が見えるように天井から斜めにつり下げるなど工夫していました。

店内で寿司・総菜を展開するコープこうべの子会社・(株)コープフーズでは、社員総動員で巻き寿司を作



り、この時期限定の「節分巻」、「焼き穴子の太巻き」などが売り場に並びました。また、組合員さんのニーズにお応えして、巻き込む具材や太さ・長さを変えた新たな商品も好評。今年は節分が金曜日ということもあり、実績は昨年より約1万本多い28万8000本となりました。

(通信員 榎原晶子)

阪神医療生活協同組合

第20回ふるさと雪まつり開催
地域のみなさんと取り組んだ、東日本大震災復興支援

今年で20回目を迎える、ふるさと雪まつりのテーマは、「地方と地域の高齢者と子供たちの交流」そして「東



日本大震災復興支援」を大きく掲げ取り組みました。会場の入り口2か所、園田中学校の生徒会のみなさんと、阪神医



療生協の組合員と職員が協同でカンパ箱を持ち、地域のみなさんへ義援金をお願いを呼びかけました。4時間で、73,604円の地域のみなさんの気持ちを預かることができました。近々、気仙沼市へ送ります。また、2年ぶりの好天にめぐまれ双星高等学校・園田中学校の吹奏楽部も演奏をすることができました。恒例の琉鼓会による沖縄エイサーも披露され、地域の交流と被災地への鎮魂の祈りを届けた、ふるさと雪まつりになりました。

(通信員 松田茂之)

風見鶏の館で「ミニシネマ」を開催しました

2月14日(火)に、風見鶏の館において、「ミニシネマ」を開催しました。この「ミニシネマ」は、風見鶏の館で欧米の名画を上映することで、普段、異人館になじみのない方々にも、もっと風見鶏の館に親しみを感じていただこうと、6年前に始められたものです。



異人館で名画を楽しむ参加者

今回はオードリー・ヘプバーンとケリー・グラント出演のサスペンス恋愛映画「シャレード」を上映しました。当日はあいにくの雨天ではありましたが、多くの方にお越しいただきました。

参加された方々からは、「おもしろかったです。なつかしい映画でした」、「ここでのシネマは初めてでしたが良い映画を見ることができて良かったです」などのご意見が寄せられました。また風見鶏の館については、「神戸・北野のシンボルなので、いつまでもきれいに美しい姿を保ってほしい」、「とても良い雰囲気です。楽しく鑑賞できました」などのお声をいただきました。

神戸は日本における映画発祥の地であり、映画との関りが深い街です。これからもこういったイベントを通じて、異人館の知られざる魅力を多くの方々に発信できればと思います。

(通信員 鹿田裕子)

〓もとまちハートミュージアム2012 〓人つなぐ道〓を開催します

2005年2月に初めて開催した「もとまちハートミュージアム」も今回で8回目を数えます。地元兵庫の障がい当事者団体・神戸元町商店街・福祉事業団体等が実行委員会を組織し、障がいがある人々の日常の活動や作品を広く市井の場である商店街に披露する場を創り、障がいがある人もない人も、高齢者も子供も当たり前に関わる福祉コミュニティの形成を目指して、様々なイベントを開催してきました。近畿労働金庫

兵庫地区統括本部は、実行委員として、開催に向けての準備を進めていきます。

今回も神戸元町商店街において、アート展をはじめ、コンサートやゴンセール、東日本大震災で被災した作業所の製品販売また、親子で楽しめる人形劇やチンドンさんの練り歩き等様々な企画を用意しました。多くの皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

(通信員 船曳毅志)

開催期間：2012年3月16日(金)～3月20日(火)

開催場所：神戸元町商店街

内容：

◆障がい者アート作品 『ドギドギ展～エネルギー～』

日時：3月16日(金)～20日(火) 10：00～18：00

(最終日は16：00まで)

場所：こうべまちづくり会館(4丁目)〈地下ギャラリー〉

◆コンサート 『もとまちウキウキ』

日時：3月17日(土) 13：00～17：00

場所：風月堂ホール(3丁目)

◆障がい者作業所製品ワゴンセール『ハートショップ』

日時：3月17日(土) 11：00～16：00

場所：風月堂前、風月堂ホール内、こうべまちづくり会館前付近

◆人形劇

日時：3月18日(日) 13：30～15：00

場所：こうべまちづくり会館(4丁目)〈2Fホール〉

◆神戸ハンドメイドコレクション『社』

日時：3月17日(土) 11：00～16：00

場所：風月堂ホール(3丁目)

◆東日本大震災復興支援バザール

日時：3月17日(土) 11：00～16：00

場所：風月堂前

◆チンドンさんの練り歩き

日時：3月17日(土) 13：00頃～

場所：本町商店街3～5丁目付近

お問い合わせ

「もとまちハートミュージアム2012」

実行委員会事務局

神戸市中央区山本通4丁目22番25号 兵庫人権会館2階

電話 (078) 252-8280 / FAX (078) 252-8281

JF 兵庫県漁業協同組合連合会

海技大学校（芦屋市）で大型船シミュレーター研修を実施！ ～漁業者と海事関係者との相互理解を図る～



昨年、初めて開催し好評だった大型船のシミュレーター研修と、漁業者や海事関係者が集まる意見交換の場としての「平成23年度明石海峡安全対策協議会」が1月31日(火)に行われ、JF・運輸・行政の関係者ら約50人が参加しました。

この取り組みは、神戸運輸監理部、神戸海上保安部、JF兵庫漁連の主催で、特にイカナゴ漁期前のこの時期に漁業者に安全運航の意識を高めてもらうことと、漁業者と海事関係者の相互理解を深めることを目的に、芦屋市の独立行政法人海技教育機構海技大学校の協力を得て開催されました。

シミュレーター講習では、参加者は大型船ブリッジとそこから見える明石海峡付近の風景を忠実に再現するシミュレーター室に入り、大型船の動力性能を体験するとともに、漁船との距離がどのくらいなら大型船側は危険と感じるのかといったことも、分かりやすい解説と共に体験することが出来ました。

次に会場を神戸海上保安部（神戸市中央区）に移し、「平成23年度明石海峡安全対策協議会」が開催され漁業者や海事関係者が意見交換を行いました。漁業者側から「（シミュレーター体験を通して）大型船の舵が利きにくいのが分かった」、「大型船は見た目より速い速度である」や、「レーダーで漁船を把握しているのか」という意見が出ました。一方、海事関係者からは「漁船の動きの予想がつかないことや、狭い海峡内では操作が制限されることを理解してほしい」、「（動力性能の問題から）漁業者は”避けてくれるだろう”という思い込みをもつのは危険」、「実際、漁船はレーダーで把握できないので目視に頼っている。」といった意見が出されたことで、お互いの考え方の相違が見えて、有意義な意見交換会となりました。



大型船の操作性を確認



意見交換会の様子

JA グループ兵庫

「世界に冠たる神戸ビーフ 海外輸出第1号 出発式」を開催

神戸肉流通推進協議会（事務局 全農兵庫県本部 畜産部）は平成24年1月29日に「神戸ビーフ海外輸出第1号」の出発式を加古川食肉センターで開催しました。昨年10月に加古川食肉センターが輸出の認定を受けたため、海外進出の道が開けました。この海外輸出第1号はマカオに向けて出荷されます。

式典には約100人の関係者が出席し、神戸肉流通推進協議会の喜多太見男会長から「神戸ビーフを名実ともに世界一の牛肉にするため、海外に販路を拡大していきたい」とあいさつがありました。また今回の神戸ビーフを取り扱う香港輸入卸業者「和牛達人」吉田綾子社長とマカオの食品卸売会社「新合記食品」の洪 聰海社長も急きょ駆けつけ、喜多会長、平井力副会長、兵庫県、加古川市、加古川食肉センター関係者と一緒にテーブルカットを行いました。続いて初出荷される神戸ビーフを積んだトラックが万歳三唱と拍手の中、出発しました。



（左から）「神戸肉流通推進協議会」平井副会長、喜多会長、「新合記食品」^{チヨン} 洪社長



最近の消費生活相談事例

原野商法の2次被害

～売れなくなった土地、広告を出せばすぐに売れます～

事例

40年前「将来必ず値上がりする」と言われて土地を購入し、転売できないまま放置していた。先日、知らない会社から「外国の投資家に宣伝する。宣伝するとすぐに買い手がつく」と電話がかかってきたが信用できるか。

【原因】

原野や山林で、ほとんど価値のない土地を、「将来、別荘地として開発されて必ず値上がりする」「鉄道が開通し駅ができて便利になる」などと根拠のない話で売りつける“原野商法”が過去に横行し、社会問題化しました。

今もその土地を所有し、できれば売却したいという被害者に対して、「広告に出せばすぐに売れる」と高額な広告掲載を勧誘したり、「土地を整備すれば必ず売れる」と高額な整地工事や測量を勧めるなどの“原野商法の二次被害”が発生しています。

過去に購入した別荘地や山林が、事業者の説明どおりすぐに売却できるかどうかは不明です。新たに無用な契約をさせられ、かえって損害を増やしてしまう可能性があります。

こうした二次被害が発生している背景には、以前土地を購入した際の顧客リストが事業者間で出回っていることが考えられます。

被害を防ぐには、

- ①事業者に言われるまますぐに契約しない。
- ②土地所在地の役所で、土地の用途や評価額などを調べる。
- ③地元の不動産業者に土地の売買状況や価格を問い合わせ、可能ならば現地を確認するなど、慎重に対応しましょう。

なお、契約してしまっても訪問販売や電話勧誘の場合は、契約書面が交付されてから8日以内であればクーリング・オフが可能な場合もあります。不審に思う点があれば、できるだけ早くお近くの消費生活センターまでご相談ください。

(兵庫県生活科学総合センター 078-303-0999)

MOVE

2011年度 『兵協連だより』 通信員・広報担当者 研修会

「見出しのコツ」と 「日本語の正しい表現」について

お申し込みは
先着順
20名

日時 3月28日(水) 15時~17時

場所 兵庫県民会館 3階「302」

内容 「見出しのコツ」と「日本語の正しい表現」について

講師 読売新聞 大阪本社 井手 正賢氏(編集部 次長)

原稿が仕上がったあと、見出しをつけるのに悩んだことはありませんか?
効果的な見出しのつけ方や、原稿を書くうえで「言葉」について一緒に考えてみましょう。

一部内容が変更になる場合があります

参加対象 会員生協『兵協連だより』通信員および広報担当者

お申し込み・お問い合わせ 兵庫県生活協同組合連合会(担当:中尾)
TEL:078-391-8634

◆ 2012年度行事予定表(主要行事) ◆

*変更になる
場合があります。

開催日		兵協連 主要行事/研修
2012年 4月	4/2(月)	兵協連 第5回理事会、貸付審査会/第1回役員推薦委員会
6月	6/4(月)	兵協連 第2回役員推薦委員会
	6/6(水)	兵協連 監事会・監査
	6/11(月)	兵協連 第6回理事会
	6/27(水)	兵協連 第62回通常総会・臨時理事会
7月	7/6(金)	第90回国際協同組合デー・兵庫県記念大会
8月	8/6(月)	兵協連 第1回理事会、貸付審査会
	8/10(金)	兵協連ピースアクション2012 被爆ピアノ平和コンサート(予定)
10月	10/1(月)	兵協連 第2回理事会、貸付審査会
	10/9(火)	2012年度兵庫県生協大会
	10/未定	兵協連 監事会・上期監査
	10/21(日)	役職員軟式野球大会(予選)
11月	11/4(日)	役職員軟式野球大会(決勝)
	11/未定	役職員ボウリング大会
	11/26(月)~30(金)	ICA-AP 地域総会(神戸)
12月	12/3(月)	兵協連 第3回理事会、貸付審査会
2013年 1月	1/5(土)	新春トップセミナー・賀詞交換会
	1/17~24間の5日間	兵協連第8回初級経理学校(未定)
2月	2/4(月)	兵協連 第4回理事会、貸付審査会
	2/未定	兵協連第11回税務・経理講習会

県連日誌

- 3月14日(水) ひょうご消費者セミナー2011 (兵庫県農業共済会館)
- 3月15日(木) 兵協連 第4回大規模災害対策 図上演習・学習 (県民会館 福)
- 3月16日(金) 兵協連 第3回医療生協部会 (県民会館 ばら)
- 3月21日(水) 兵協連ピースアクション全体会 (県民会館 902)
- 3月22日(木) 兵協連 第2回医療生協部会 組織担当者会議(県民会館 ばら)
- 3月27日(火) 兵協連 第3回保健・医療・福祉研究会(県民会館 B101)
- 3月28日(水) 『兵協連だより』通信員・広報担当者研修会 (県民会館 302)
- 3月29日(木) 兵協連 第6回生協活動委員会 (県民会館 ばら)

編集後記

春!新しいことを始めようと、先日からクッキングスクールへ通うことに。友人からは「えっ!何?今から花嫁修業?!」と言われ、「そう、そう」と答えながらも、心の中では「ホントは老後(?)のためにレパートリーを増やすのよっ」とつぶやく私。テキパキ先生のもと、数人の受講生で一心に大根を切ったり、吹きこぼれないように鍋をながめては、ひとときの気分転換に。そして、完成後はお腹もいっぱいになり……と一石二鳥です。ただ、美味しそうなメニューの講座がいっぱいあって、少し食べ過ぎてしまわないかと心配です。「食欲の春」……どうにか、スカートが「ゴムのウエスト」にならませんように……。(中尾)